

令和3年度『全国学力・学習状況調査』 座間市立小・中学校全体の結果と傾向

国語・算数・数学・児童生徒質問紙からみた傾向

座間市教育委員会

令和3年11月

小学校 国語

本市の児童の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県より下回る結果となりました。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○学習指導要領の内容および設問から見た傾向や課題

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆文の中における主語と述語との関係を捉えることに課題がある。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

◇資料を用いた目的を理解することについて良好な結果である。

◆目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることにやや課題がある。

書くこと

◆目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

読むこと

◇文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することについて、おおむね良好な結果である。

◆目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。

【育てたい力】

日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、思考力や想像力を育てたい。

伝えあう力を高めることで、人間と人間との関係の中において、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりできるようにする。また、思考力や想像力を養うことで、言語を手掛かりとしながら論理的に思考したり、豊かに想像したりできるようにする。そうして育まれた思考力や想像力を新たな発想や思考を創造する力につなげたい。

○指導改善のポイント

[知識及び技能]

言葉の特徴や使い方に関する事項

○主語と述語との関係について理解する

- ・日常的に主語が何かを意識して文章を書くように指導することが大切である。その際、読み手の立場に立って主語を省略せずに示したり、主語と述語のねじれがないかを確認してから伝えたりすることができるように指導する必要がある。[思考力、判断力、表現力等]の「B書くこと」の「推敲」に関する指導事項などとの関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

○話の内容を明確に伝えるために、構成を工夫する

- ・自分の考えや伝えたい内容を相手に分かりやすく伝えるためには、具体的な相手や目的を意識して、話の中心を明らかにすることが重要である。その上で、意見や提案、報告などの話の種類やその特徴を意識することが必要である。その際、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別したり、詳しい説明を付け加えたりするなどの構成を工夫することが大切である。

書くこと

○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように詳しく書く

- ・異なる立場の考えを取り上げ、それに対する自分の考えを明確にできるようにすることが大切である。例えば、他者にインタビューやアンケート調査などを行い、他者の視点や異なる立場の考えを取り上げることなどが考えられる。このように、目的や意図、文章の種類や特徴に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことができるように指導の充実を図ることが大切である。

読むこと

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける

- ・実生活において、児童が触れる文章には図表やグラフなどを含むものが多い。そのため、学習指導に当たっては、そのような文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるようにすることが大切である。文章と図表などの情報を合わせて読むことで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができる。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。

小学校 算数

本市の児童の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県ほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

数と計算

◆商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることに課題がある。

図形

◆三角形の面積の求め方について理解することに課題がある。

測定

◆条件に合う時刻を求めることにやや課題がある。

変化と関係

◆速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。

データの活用

◆棒グラフから項目間の関係を読み取ることにやや課題がある。

【育てたい力】

算数では、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育てたい。また、数学のよさに気づき、算数と日常生活との関連についての理解を深め、算数を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程や結果を振り返って評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育てたい。

○指導改善のポイント

数と計算

○数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができ
るようにする

- ・除法の場面では、何が被除数で、何が除数かを捉えて立式することができるようになることが重要である。例えば、問題4（2）を用いて、8人に4Lのジュースを等しく分けるということ、4Lのジュースを8人に等しく分けると言い換えたり、 $4 \div 8 = 0.5$ という立式の理由を理解する場を通して、問題場面に対応した式について話し合ったりする活動が考えられる。その際、具体物を操作したり、絵や図に表したりしながら、「なぜ $4 \div 8$ の式になるといえるのか」について、理由を説明できるようにすることが大切である。

図形

○図形の面積の求め方を理解するとともに、求める際に必要な情報を図形から選び出すことがで
きるようにする

- ・図形の面積の学習では、公式を導き出す過程において、図形のどこの長さに着目すると、面積を求めることができるのかを理解できるようにすることが重要である。また、公式を用いて面積を求める際には、底辺と高さの関係を理解し、必要な情報を選び出すことができるようにすることも重要である。

測定

○条件に合う時刻を求めることができるようにする

- ・日常生活において計画的に行動する際に、条件に合う時刻を設定することがよく行われる。その際、ある事柄の開始時刻と終了時刻、所要時間の関係を捉えることができるようにすることが重要である。また、図と時計の模型を対応させるなど、時間が経過していく様子を視覚的に捉えることができるようにすることも大切である。

変化と関係

○速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにする

- ・問題1（3）を用いて、1600mを20等分することや、500mを7等分することについて、図を用いるなどして、1分間に進む道のりを求めていることを確かめる活動が考えられる。その際、式の中の数と表の中の数値を対応させることで、 $1600 \div 20$ を（道のり） $\div$ （時間）と捉え、1分間あたりに進む道のりを求めていることを理解することが大切である。

○速さについて、求めた商の大小で判断できるようにする

- ・速さについて、どちらが早いかを調べる場合は、時間と道のりのどちらを単位量にするかによって、求めた商が大きい方が速い場合と、小さい方が速い場合があり、商の意味を理解して判断できるようにすることが重要である。例えば、どちらが速いかを考える際に、同じ時間で長く走った方が速いという日常の経験を想起しながら、1分間あたりに進む道のりの大小について、図を用いて判断する活動が考えられる。

データの活用

○棒グラフから、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ることができる

- ・棒グラフから、目的に応じて、各項目の数量の大きさを読み取ったり、最大値や最小値を捉えたりすることで、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ることができるようにすることが重要である。指導に当たっては、棒グラフから、最大値や最小値、差、割合、集団のもつ全体的な特徴などを読み取る際に、各項目の数量を比べ、棒の長さの違いに着目し、表現できるようにすることが大切である。

小学校【児童質問紙からみた傾向】

本市の児童の調査結果については、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆はやや課題であると思われるところ

◇「人が困っているときは、進んで助けていますか」との問いに対して、「当てはまる」と答えた児童の割合が多かった。

これは「豊かな心を育むひまわりプラン」の「こんな大人になってほしい」にある「温かな心で人とのかかわり合い、奉仕の心で人の役に立つ」や、座間市の教育大綱にある8つの施策で1番に挙げられている「思いやりと規範意識を育む豊かな心の育成」にある「相手を思いやる心、平和を愛する心、人の役に立つ奉仕の心など、豊かな心を育成します」にもつながるものと思います。学校・保護者・地域が一体となった教育が展開されていく中で、このような心が多くの子どもたちの中に育まれていけば、愛ある人づくり・まちづくりが加速し、そこに生きる人々の知恵も大きく豊かに膨らんでいくものと思われます。今後も力を入れて取り組んでいきたい大切なポイントです。

◇「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と答えた児童の割合が多かった。

本市の小学6年生の携帯電話・スマートフォンやコンピュータの利用率は約92%と全国よりも高い状況にありますが、各家庭でそれらの使い方について約束を決めていること、その約束を守っている児童が多いことが伺えます。引き続き、フィルタリング機能や時間・使用制限機能などを有効に活用しながら、日頃から子どもの使用状況を見守ることが大切です。

◇「学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするためにどの程度使用しているか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週1回以上」と答えた児童の割合が多かった。

文部科学省によるGIGAスクール構想の推進により、本市でも、1人1台端末を整備し、児童にとってICT機器が身近なものになりました。今後も、友達との意見交換や情報の共有、調べ学習など、多様な場面でICTを効果的に活用しつつ学びの充実を図っていきます。また、ICT機器の普及した社会において、児童が情報や情報機器を主体的に選択・活用したり、情報を適切に発信・受信したりしていくための基礎的な資質や能力、情報モラルの育成にも努めていきます。

- ◇「普段（月曜日から金曜日）、スマートフォンやコンピュータなどの ICT 機器を、勉強のために使っている」と答えた児童の割合が多かった。

学習の中で ICT 機器を使用する機会が多くなり、ICT 機器の使用は勉強の役に立つと感じている児童が増えています。学校での学びが変化したことから、家庭でも児童が積極的に ICT 機器を活用して学んでいる様子が伺えます。

児童が ICT 機器に触れる機会が増加していることから、より一層の情報モラルの育成が必要です。学校では、教育活動全般において情報モラル教育に積極的に取り組んでいます。ご家庭でも、機会を捉えて情報モラルやマナーの育成に取り組んでいただきたいと思います。

- ◆「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」との問いに対して、「3時間以上」と答えた児童の割合がやや多かった。

平日にテレビゲーム等を長時間行うことは、放課後の学習時間の不足や生活リズムの乱れにつながります。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と答えた児童の割合は比較的高いことを踏まえて、家庭で、平日の携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、今一度、親子で確認し合う機会を設け、子どもが放課後の時間を有意義に過ごせるようにしましょう。

- ◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童の割合が多かった。

この問いは、これまでも課題となっていた内容ですが、昨年度は特に、新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な行事やイベント等が中止になり、子どもたちが地域の行事に参加できない状況にあったことが大きな要因と考えられます。

令和4年度から全校で導入するコミュニティ・スクールでは、学校と家庭と地域が「子どもたちの豊かな心を育てる」という共通の目標に向かって、連携・協働しながら教育活動を展開していくことができます。地域の皆さんの積極的な参画により、子どもたちの学びや体験活動が充実し、地域とのつながりが深まることが期待されています。

中学校 国語

本市の生徒の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

話すこと・聞くこと

◇質問の意図を捉えることについては、おおむね良好な結果である。

◆話合いの話題や方向を捉えることにやや課題がある。

書くこと

◇書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えることについてはおおむね良好な結果である。

◆書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことにやや課題がある。

読むこと

◇文脈の中における語句の意味を理解することについてはおおむね良好な結果である。

◆文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことにやや課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇文脈に即して漢字を正しく読むことについてはおおむね良好な結果である。

◆相手や場に応じて敬語を適切に使うことにやや課題がある。

【育てたい力】

社会生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、思考力や想像力を育てたい。

伝えあう力を高めることで、人間と人間との関係において、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりできるようにする。また、思考力や想像力を養うことで、言語を手掛かりとしながら論理的に思考したり、豊かに想像したりできるようにする。そうして育まれた思考力や想像力を新たな発想や思考を創造する力につなげたい。

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

○話題や展開を捉えながら話し合う

- ・報告などを聞く際には、話の内容を理解するために、必要に応じて重要な情報を書き留めたり、分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを話し手に尋ねたりするように指導することが引き続き大切である。

書くこと

○読み手の立場に立って文章を整える

- ・目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する必要がある。その際、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導することが大切である。

読むこと

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする

- ・文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する必要がある。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにできるように指導することが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使う

- ・言葉遣いについては、小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する必要がある。その際、公的な場面で改まった言葉遣いをすることのほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどにも留意するように指導することが大切である。

中学校 数学

本市の生徒の調査結果（平均正答率）は、全国・神奈川県とほぼ同程度の結果でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆は課題であると思われるところ

○領域および設問から見た傾向や課題

数と式

◇目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することは良好な結果である。

◆具体的な場面で、一元一次方程式をつくることにやや課題がある。

図形

◇平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することはおおむね良好な結果である。

◆ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することにやや課題がある。

関数

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することにやや課題がある。

資料の活用

◇ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることはやや良好である。

◆与えられたデータから中央値を求めることに課題がある。

【育てたい力】

数学では、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育てたい。また、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育てたい。

○指導改善のポイント

数と式

○具体的な問題の解決に方程式を活用するために、方程式をつくることができるようにする

- ・問題解決の場面で方程式を活用する際に、問題の中にある数量やその関係性を捉え、一元一次方程式をつくることができるように指導することが大切である。

図形

○ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現できるようにする

- ・条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下で、いつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現することができるように指導することが大切である。

関数

○問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

- ・様々な問題を、数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て「用いるもの」とその「用い方」について考え、説明できるように指導することが大切である。その際、実際に行った解決の過程を振り返り、そのときに用いた方法について、「用いるもの」とその「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導すること大切である。

資料の活用

○データの特徴を捉えるために、代表値を求めることができるようにする

- ・データの特徴を捉えるために、代表値を求めることができるように指導することが大切である。その際、目的に応じてデータ全体を表す指標としてふさわしい代表値を選択し、それを的確に求める活動を取り入れることが考えられる。

○代表値を用いて、データの傾向を的確に読み取ることができるようにする

- ・データに基づいて不確定な事象を考察する場面において、目的に応じて収集したデータを度数分布表やヒストグラムに表してデータの分布を捉えた上で、どの代表値を用いるべきかを判断し、代表値を用いてデータの傾向を的確に読み取ることができるように指導することが大切である。

中学校【生徒質問紙からみた傾向】

本市の生徒の調査結果については、全国・神奈川県の結果とほぼ同様でした。

全国・県よりも、◇はよいと思われるところ、◆はやや課題であると思われるところ

- ◇「１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。」と答えた生徒の割合が多かった。

中学校では、小学校で培われた「自分なりに考えていることや、感じていること等を、わかりやすく相手に伝わるように発表する」力をさらに伸ばしていくことが必要です。自身の思いを正確に相手と伝え合うことは、自己有用感も育てます。また、座間市教育大綱の中で取り上げられている「書く力の向上を中心とする確かな学力の育成」の観点からも、順序を整理し、より効率的・効果的に伝えることは、文章の構成力の向上とともに、書く力の向上にも結びつきます。このような日常的な取組が、生徒の自立した学校生活の土台づくりにもつながっていると思います。

- ◇「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれぐらいの時間、勉強しますか（塾、家庭教師を含む）。」との問いに対して、「３時間以上」と答えた生徒の割合が多かった。

第２期座間市教育大綱では、新たに「家庭教育への支援」を施策の一つに掲げています。家庭教育がすべての教育の出発点であると認識し、学校や地域と連携しながら、家庭の教育力の充実に必要な取組について支援していきます。

生徒は、部活動や習い事など日々慌ただしく過ごしていると思われますが、学習する習慣が継続されていくことは、成長著しいこの時期に大切なことです。今後も時間を有効活用し、充実した学習時間の確保を継続してお願いいたします。

- ◇「学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするためにどの程度使用しているか」との問いに対して、「週１回以上」と答えた生徒の割合が多かった。

「１・２年生のときに受けた授業で ICT 機器を「週１回以上」活用したか」の問いでは、約２割でしたが、この問いでは約５割に増加しています。

文部科学省による GIGA スクール構想の推進により、本市でも１人１台端末を整備し、生徒にとって ICT 機器が身近なものになっていると考えられます。今後も、友達との意見交換や情報の共有、調べ学習など、多様な場面で ICT を効果的に活用しつつ学びの充実を図っていきます。また、ICT 機器の普及した社会において、生徒が情報や情報機器を主体的に選択・活用し

たり、情報を適切に発信・受信したりしていくための基礎的な資質や能力、情報モラルの育成にも努めていきます。

◇「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と答えた生徒の割合が多かった。

本市の中学３年生の携帯電話・スマートフォンやコンピュータの利用率は約９８％と全国よりも高い状況にありますが、各家庭でそれらの使い方について約束を決めていること、その約束を守っている生徒が多いことが伺えます。引き続き、フィルタリング機能や時間・使用制限機能などを有効に活用しながら、日頃から子どもの使用状況を見守ることが大切です。

生徒が ICT 機器に触れる機会が増加していることから、より一層の情報モラルの育成が必要です。学校では、教育活動全般において情報モラル教育に積極的に取り組んでいます。ご家庭でも、機会を捉えて情報モラルやマナーの育成に取り組んでいただきたいと思います。

◆「普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」との問いに対して、「３時間以上」と答えた生徒の割合がやや多かった。

平日にテレビゲーム等を長時間行うことは、放課後の学習時間の不足や生活リズムの乱れにつながります。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」と答えた生徒の割合が比較的高いことを踏まえて、家庭で、平日の携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、今一度、親子で確認し合う機会を設け、子どもが放課後の時間を有意義に過ごせるようにしましょう。

◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか」との問いに対して、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた生徒の割合が多かった。

この問いは、これまでも課題となっていた内容ですが、昨年度は特に、新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な行事やイベント等が中止になり、子どもたちが地域の行事に参加できない状況にあったことが大きな要因と考えられます。

令和４年度から全校で導入するコミュニティ・スクールでは、学校と家庭と地域が「子どもたちの豊かな心を育てる」という共通の目標に向かって、連携・協働しながら教育活動を展開していくことができます。地域の皆さんの積極的な参画により、子どもたちの学びや体験活動が充実し、地域とのつながりが深まることが期待されています。